

2005年10月から2013年12月までに当院に脳血管障害で入院された患者さんへのお知らせ

課題名「急性期脳梗塞患者の頭部MRI-FLAIR画像の血管高信号(Hyperintense Vessels)の検討」

脳梗塞は、脳の血管が詰まり、脳へ血液が流れなくなることで起こる疾患です。心臓や胸部大動脈、頸動脈などから血栓（血のかたまり）やコレステロールのかたまりなどが脳血管へ流れ込み、脳血管を閉塞することが原因の一つです。頭部MRIは脳梗塞の診断に非常に重要であり、当院では脳梗塞が疑われるような症状がある場合は、撮影できない条件のある方を除き全例で撮影しております。この頭部MRIにより、病変部位、閉塞血管、脳出血の合併の有無などを確認し、治療法を決定していきます。

頭部MRIには数種類の撮影方法がありますが、その中でFLAIR(fluid attenuated inversion recovery)法があります。この撮影方法では血管は通常は描出されませんが、閉塞し血流が低下した血管が描出されることがあります。これをFLAIR Hyperintense Vessels(FHV)と呼んでいます。その臨床的な意義は完全には解明されていません。そこで当院に入院された患者さんで、アルテプラゼ(tPA)による血行再建療法を施行した方を対象に、FHVの推移や臨床的特徴などについて、患者さんの診療データを用いて後方視的調査研究（カルテ調査により問題点、疑問点を解決する研究）を実施することにしました。

この研究は、2005年10月から2013年12月までに当科へ入院され、tPA静注療法を行った患者さんが対象です。診療で得られた画像（CT、MRI、エコー）所見と脳卒中の重症度スケールや、血液検査所見などを比較して検討を行います。今回、この研究を行なうことについて同意をいただけない場合には登録情報を全て破棄しますが、すでに学会発表や論文で発表されている場合には破棄できない場合もあります。

患者さんの情報については個人名や個人を特定できるデータは伏せており、当院の個人情報保護規程に従って厳密に管理し、第三者が閲覧することはありません。また、この研究で患者さんは不利益を被ることはありません。本研究は倫理委員会の承認を得ております。研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社など）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみがおこりかねない状態を利益相反状態といいます。本研究はカルテデータをもとにした後ろ向き研究であり研究資金は必要としないため、利益相反の状態になりません。

この研究に対して、ご質問がある方は、下記担当者までご連絡ください。

担当： 川崎医科大学附属病院 脳卒中科 臨床助教 作田健一  
岡山県倉敷市松島 577 TEL: 086-462-1111 FAX: 086-464-1128